

Ⅲ 委員会活動

医学研究倫理委員会

文責／小野 剛

◎目的

玉川病院内で施行される“人を対象とした医学的研究および医療行為”を対象として、新たなエビデンスの確立を目指し、科学的・倫理的配慮に基づいて臨床試験を審議・改善・認証することを目的とする組織である。ヘルシンキ宣言(1964年採択、2013年フォルタレザ[ブラジル]最新修正)の趣旨に沿って、かつ、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(文部科学省、厚生労働省、経済産業省)等に準拠し審査を行う。

◎メンバー(2023.3現在)

委員長：小野 剛(診療部)

診療部：坪島顕司

医療技術部：北岡 晃

看護部：高橋由美子

事務部：高橋英次、伊藤 一、石川裕弥

外部委員：東京都立大学 網本 和

東京工業大学 三宅美博

◎開催日

小委員会：第2水曜日、午後4時30分

本審査：第4水曜日、午後5時30分

◎活動報告

審査総数：35件

審査状況：本審査5件、迅速審査26件、
審査取下げまたは対象外3件、
2023年度へ審査持ち越し2件

審査結果：承認28件、条件付き承認2件

申請の際、研究者はICR臨床研究入門(https://www.icrweb.jp/icr_index.php)の“臨床試験の基礎知識講座”でeラーニングによる基礎知識を習得し受講修了証の提出を必須としている。倫理審査においては文部科学省・厚生労働省・経済産業省が示す「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針ガイダンス」を使用。円滑でより厳格な審査を行うため、本審査前に院内委員による事前委員会で申請案件の審査方法(迅速審査、本審査)の判定を行っている。

◎今後の目標

研究者・研究機関・倫理審査委員会をはじめとする全ての関係者が、高い倫理観を保持し、人を対象とする医学系研究が社会の理解および信頼を得て社会的に有益なものとなるよう適切に対応していく。

医療安全管理委員会

文責／杉山 恵

◎目的

医療事故の発生・再発を予防し、「医療の質」の確保と「安全な医療」「患者安全」を実施するための医療安全全体の充実を図る。

◎メンバー(2023.3現在)

委員長：相川 丞(診療部)

診療部：和田義明、大石陽子、松下達彦

医療安全管理室：杉山 恵

(ジェネラルリスクマネージャー)

感染管理室：横溝直子(感染管理特定認定看護師)

看護部：高橋由美子、大池由貴子、栗原真希、平野未沙、
中村香織

医療技術部：北岡 晃、井上博満、菅野将敏、千葉哲也、
篠原 真、小林 仁

事務部：佐藤佳子

◎開催日

第3月曜日、午後4時

◎活動状況

- ・各部署において医療安全確保のため目標を掲げ、医療安全対策の実施および評価
- ・医療安全ラウンド(月1回)
- ・医療安全カンファレンス(週1回)
- ・医療安全セミナー(年2回)：eラーニング
7月：「多職種協働による患者安全」：参加率 81.8%
12月：「薬剤の誤投与に係る死亡事例」
：参加率 91.8%
- ・医療安全対策地域連携ラウンド
テーマ：「医療安全管理体制」「放射線科安全管理体制」
I・I連携：東京共済病院(7月、9月)
I・II連携：世田谷記念病院(10月)
- ・医療安全ニュース発信：4回
- ・I/Aレポート報告：1,343件(前年比+79件)
1事例に対する複数報告86件(前年比+82件)

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

- ・事故レベル発生率：I/Lv0～Lv3a 96.7%
A/Lv3b～Lv5 3.1%
ヒヤリハット(Lv0～Lv1)発生率：59.1%
(前年比-1.4)
アクシデント発生件数39件 発生率3.1%
(前年比+1.1)
- ・概要別発生率
薬剤35%(-1.2) 転倒転落19%(-4.6)
ドレーン・チューブ13.5%(+0.3)
検査11.6%(+2.6)
療養上の世話1%(-3) 手術関連3.6%(+1.4)
治療処置2.8%(+0.4)
医療機器1.4%(-0.8)
- ・入院患者転倒転落発生率2.28%(前年比-0.46)
- ・入院患者転倒転落における損傷発生率
損傷レベル2以上0.21%(前年比-0.08)
損傷レベル4以上0.12%(前年比+0.05)
- ・骨折13件
- ・転倒転落発生時間
①14時～15時12.1% ②10時～11時11.9%
③18時～19時10.9%

- ・転倒転落アセスメント実施率64%
- ・職種別報告件数
①看護部91.9%(+5.3) ②診療部3.9%(-0.4)
- ・報告職種経験年数
①11～20年26.6% ②21～30年14.5%
③0～1年9.5% ④5年～6年6.4%
- ・患者誤認 54件(発生率：4.3%)
- ・ビーフリード開通忘れ13件
- ・事例検討会 8件
- ・主な再発防止対策
・造影剤検査対応フロー整備
・当直帯スタートアップミーティング体制の確立
・心肺蘇生を行わないこと(DNAR)に関わる意思表示
説明同意書運用(臨床倫理委員会協働)

◎今後の目標

- ・アクシデント発生の低減
- ・死亡症例、合併症症例検討会開催
- ・緊急要請(E-call)体制の再考および職員周知
- ・患者誤認防止対策強化
- ・自主的に報告できる組織風土の醸成

感染対策委員会

文責／横溝直子

◎目的

医療関連感染予防対策を適正かつ円滑に遂行するための検討を行い、職員に周知徹底を図り、医療関連感染を減少させる。

◎メンバー(2023.3現在)

委員長：齋藤和幸

診療部：和田義明、相川 丞、岩淵千雅子、田中望未、
大石陽子、高澤玲子

感染管理室：横溝直子、高野綾香、田川誠二、古賀一将、
飛知和澄子

医療安全管理室：杉山 恵

看護部：高橋由美子、谷川まゆみ、長谷川寿美子、
村本七奈、鈴木友香、

各看護単位・介護科1～2名

医療技術部：北岡 晃、酒匂啓輔、松村彩子、原 慶、
篠原 真

事務部：佐々木栄三、渡邊侑李、五十嵐さよ子

◎開催日

第2火曜日、午後4時(ICT：毎週水曜日、午後4時)

◎活動報告

- ・院内環境ラウンド(ICC月1回・ICT週1回)
今年度は環境ラウンドに重きをおき活動した。医師を含むICTメンバーで病棟は月1回、他の部署も年2回ず

つラウンドし、各部署のリンクスタッフや所属長が同行、改善活動を行った。

・リンクスタッフ勉強会

4月リンクスタッフの役割、5月標準予防策・経路別予防策、6月演習：手指培養、7月手指培養結果、直接観察法、8月・12月サーベイランス、1月・2月クラスターふりかえり

・耐性菌サーベイランス・抗菌薬適正使用の監視

・針刺し・切創 件数14件(前年比+6)

血液・体液曝露 2件(前年比-1)

ルールを逸脱したために発生した曝露5件(前年比+4)

・手指衛生指数(1日1入院患者あたりの手指衛生回数)

6.9回(-1.0)

COVID-19対応で多忙のため、質の評価である直接観察法は開始できなかった。

・デバイスサーベイランス

COVID-19禍で中止となっていたデバイスサーベイランスを再開した(9月～)

CLABSI発生率 2.66、使用比0.06、感染者6人

CAUTI発生率1.95、使用比0.16、感染者11人

◎今後の目標

- ・ルールを逸脱したために起こった針刺し・切創、皮膚・粘膜曝露 年14件未満

- ・手指衛生指数 8回以上 手指衛生の質評価の開始
- ・CLABSI、CAUTI感染率の低下、SSIサーベイランス開始
- ・COVID-19対策 職員から患者への感染伝播が疑われる事例が発生しない

メンタルケア・ハラスメント委員会

文責/今村吉彦

◎目的

定期的にストレスチェックを行い、職員のメンタルケア・ハラスメントの有無をチェックし、高い健康リスク者へのケアの取り組みや職場のハラスメントに対応する。

◎メンバー(2023.3現在)

委員長：今村吉彦(診療部)

看護部：小川マツ子

医療安全管理室：杉山 恵

(ジェネラルリスクマネージャー)

医療技術部：元良俊太、澤田祐子

診療支援部：水高優子

事務部：佐々木栄三

オブザーバー：保坂 隆

(保坂サイコオノロジー・クリニック院長)

◎開催日

第2水曜日、午後4時

◎活動報告

1.メンタルケア

- ・2022年度もコロナ禍における職場のストレスが高じ、メンタルケアを希望される職員が多かったため、保坂 隆医師に面談を継続していただいた。
- ・職場のメンタルヘルス対策を行うため、ストレスチェックを行った。本年度からストレスチェック制度をHRデータラボのストレスチェッカーへ変更。チェック項目は57項目で、仕事上でのストレスの原因、ストレスによる心身の反応、その他のストレス要因、健康リスクを評価した。

実施日：2021年8月15日～9月15日、実施率：88.4%
仕事上でのストレスの原因：働きがいや仕事のコントロールに関しては全国平均以下であったが、仕事の質、身体的負担が高かった。ストレスによる心身の反応は全国平均で、総合健康リスクは110と全国平均(100)よりやや高かった。なお高リスクの個人に対しては保坂医師の面談・受診を勧めている。

2.ハラスメント

・「職員の声」ポストから：投書：13件、面談：8件、その他(環境整備についてなど)：5件

相談事項は職場の人間関係に関する内容が多く、ハラスメントに関してはほとんどが職場上司によるパワハラであった。面談希望者は本人の同意を得て対象者に対し委員数名がヒアリングを行い、その後委員会にて保坂医師にアドバイスいただきながら状況の確認や対策を検討している。さらに対応が困難な事例に関して院長に進言し解決をはかっている。

・全職員を対象にハラスメント防止研修をsafety plusを用いて4月に施行。受講率83%であった。

・STOPハラスメントのポスターを作成し院内の各部署に配布した。また相談窓口を委員会に加えて保坂医師、当院産業医の川村医師に広げた。

◎今後の目標

職場のハラスメントが高ストレスや作業能率の低下につながり、さらに新たなハラスメントを生み出す土壌となるので、風通しのよい職場環境を構築すべく、メンタルケア対策やハラスメント研修を強化し職員個々の意識を高めていきたい。

総合的質管理(TQM)委員会

文責/今村吉彦

◎目的

2019年にホスピタリティー委員会と教育研修委員会が統合して発足した委員会。患者・職員満足度調査およびTQM(Total Quality Management)活動を継続し、その内容を分析し病院の質の保持・向上へつなげる。

◎メンバー(2023.3現在)

委員長：今村吉彦(診療部)

診療部：奥田直樹

看護部：渋谷喜代美、浅川美保、大竹順子、石川 歩

医療技術部：井上博満、松村彩子、古賀一将、小倉敬史、

小林悟史、梅津美奈子

診療支援部：平田美乃里、橋本史子、和田哲馬、

船橋達也、大西真美子

事務部：藤井 隆、松坂加寿美

◎開催日

第4火曜日、午後4時

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

◎活動報告

- ・新入職オリエンテーション：2022年4月1日新入職者(約70名)オリエンテーションを行った。コロナ禍のため開始前8時半から出席者の体温チェックおよびCOVID-19の抗原検査を施行した。院長からの玉川病院のビジョン・ミッションについての話から始まり、個人情報保護、感染対策、医療安全、災害対策などについて担当者から説明された。
- ・TQM活動：2年ぶりに対面での第13回TQM発表会を開催した。今回からキックオフ会を5月、発表会を12月の同一年度に行うように変更した(今までは前年10月～翌年7月)。テーマは「共存」で2022年12月17日(土)に開催し全9チームがエントリーし約50名が参加した。優勝は「透析患者さんを災害から守ります！」であった。
- ・職員満足度調査：ESナビゲーターⅡ(日本経営(株))を使用し2023年2月～3月に施行した。回答者/対象者=596/756名、回答率78.5%であった。当院は活性型組織であり、労働環境やリーダーシップに関する項目が向上していた。また院長から職員に対して今後の展望などについてメッセージを配信していただいた。
- ・患者満足度調査(入院患者)：紙ベースによるアンケート調査に戻し2022年9月5日～10月12日に実施した。対象患者数454件(死亡症例を含む)に対し、回答件数190件、回答率41.9%であった。総合評価はとても満足と満足を合わせると90%以上であり良好であった。今年度は外来患者に対する調査は施行できなかった。来年度は施行予定である。
- ・患者からの投書：年間投書数は471件(要望106件、意見146件、感想219件)であった。月毎に集計し、ご指摘の声に対しては担当部署にフィードバックし改善点を検討している。また要望のあった代表例とその対応策をホームページに掲載・公開している。

◎今後の目標

- ・病院機能評価認定病院の機能を維持する。
- ・TQM活動は、院内における日頃の疑問点や改善点などをテーマとし、さまざまな職種で具体的な対策を考え病院の改善や進歩につなげていく活動である。職員のモチベーションを高め、活発化させていきたい。
- ・患者および職員満足度調査の結果を正しく評価しその分析を進め、フィードバックしていく。
- ・患者からの投書に対し真摯に対応していく。

特定行為研修管理委員会

文責／大石陽子

◎目的

特定行為看護師育成、看護師特定行為研修に関する研修管理、指導体制の整備、研修修了後の特定行為看護師に対する活動のサポートを行う。

◎メンバー(2023.3現在)

委員長：大石陽子(診療部)

診療部：和田義明、相川 丞、栗原正利、今村吉彦、石井一之、森田瑞生、岩渕千雅子

看護部：高橋由美子、澁谷喜代美、木幡典子、柳川花菜子

医療技術部：北岡 晃

診療支援部：高木 真

事務部：佐々木栄三、高橋英次

外部委員：長嶋久美子(世田谷区医師会立看護専修学校)

◎開催日

年数回

◎活動報告

【特定行為看護師研修】

- ・2023年3月現在、15名の特定看護師が診療の現場で活動し、特定行為研修の教育およびサポートを行っている。

- ・今年度(第四期)は2名に対し、下記の特定行為について研修を実施した(研修期間:2022年6月～2023年5月)。さらに、院外より1名の研修生を受け入れた。

- ①末梢挿入中心静脈カテーテル(peripherally inserted central catheter : PICC)1名
- ②感染に関わる薬剤投与関連1名
- ③褥瘡または慢性創傷の治療における血液のない壊死組織の除去・創傷に対する陰圧閉鎖療法1名
- ④持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整・脱水症状に対する輸液による補正2名

- ・共通科目と区分科目のスケジュール作成、講師の依頼。
- ・演習や実習のサポート

【特定行為看護師活動状況】

- ・2023年3月現在、15名の特定看護師が診療の現場で活動し、特定行為研修の教育およびサポートを行っている。
- ・特定行為研修フォローアップ研修：世田谷記念病院特定看護師との情報交換会(2022年12月2日)
- ・特定看護師活動報告会開催—1年間の活動報告—(2023年3月15日)

- ・特定看護師活動状況：
 - ①末梢挿入中心静脈カテーテル(peripherally inserted central catheter：PICC)5名
 - ②褥瘡または慢性創傷の治療における血液のない壊死組織の除去・創傷に対する陰圧閉鎖療法7名
 - ③創部ドレーン抜去3名
 - ④透析管理関連1名
 - ⑤胸腔ドレーン管理1名
 - ⑥感染に関わる薬剤投与関連1名
 - ⑦持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整・脱水症状に対する輸液による補正15名

◎今後の目標

- ・2024年度からパッケージコースおよび新規区分の増設を検討する。
- ・診療現場における特定行為看護師の活躍の場を拡大する。
- ・特定行為看護師研修修了者に対する卒後教育の充実。
- ・地域の訪問診療医および看護ステーションとの情報交換および交流を深める。

臨床研修管理委員会

文責／齋藤和幸

◎目的

初期研修医の研修目標であるプライマリケアの習得および医師としての人格の育成を支えるために当委員会がある。研修プログラムの作成、研修プログラム相互間の調整、研修医の管理および研修医の採用・中断・修了の際の評価等々、臨床研修実施に関してその統括管理を行う。

また内科専攻医に対して研修履歴・実績を登録し、審査を受ける仕組みとなるOnline system for Standardized Log of Evaluation and Registration of specialty training System：J-OSLER研修プログラム下で内科専攻医の総合内科専門医取得を目標としてその研修を評価・管理する。

◎メンバー(2023.3現在)

委員長・プログラム責任者：齋藤和幸
 診療部：和田義明、石井一之、朝木千恵、大石陽子
 看護部：澁谷喜代美
 事務部：佐々木栄三、小野崎佳彦
 協力型臨床研修病院の研修実施責任者：
 並木 温(東邦大学医学部卒後生涯教育センター長)
 合計9名(敬称略 順不同)

◎開催日

定期開催：年4回

◎活動報告

2022年度8名(基幹型4名：1年次2年次2名ずつ、東京医科歯科大学協力型4名：1年次2年次2名ずつ)、2023年4月からは基幹型4名：1年次2年次2名ずつ、東京医科歯科大学協力型2名が研修している。内科専攻医は2023年度5年次2名、4年次1名、3年次3名で構成されている。2022年度、各研修医のローテーションスケジュール(表1)。

必修科目は内科(28週)、救急(8週)、麻酔(8週)、外科(9週)を1年目、小児科(4週)、産婦人科(4週)、精神科(4週)、地域(4週)を2年目に研修している。外来並行研修

として、総合内科外来を週2日担当し指導医の指導を受けた。小児科は成育医療研究センター病院、精神科は都立松沢病院、地域研修は玉川クリニック、日産厚生会診療所、ふくろうクリニック、三次救急研修は東邦大学医療センター大森病院にお願いした。指導医は臨床経験豊富な常勤医が務める。

研修評価はE-Portfolio of Clinical training for Post-Graduates:PG-EPOCによる臨床研修評価システムで実施する。基本的臨床能力評価試験(JAMIP)によりプライマリケアや総合診療の知識全般を評価した。

2022年5月～2022年1月で約30回、指導医などによる研修医セミナーを開催(表2)。

2022年度はweb及び対面において初期研修医(2023年度)病院説明会を実施した。

2022年8月13日と20日に初期研修医(2023年度)の入職採用試験を実施した。

2023年1月にJAMIPを行った。

2023年2月20日、初期研修医 院内研究発表会(YIA)を開催。

2023年3月27日、早朝医局会で修了証書授与式を開催。

◎2022年度初期研修医の総評

1. 研修状況について(表1)

入院診療は前年度と同様、新型コロナウイルスの感染状況により救急搬送受け入れ減少や一時的な病棟閉鎖による影響を受けた。外来診療は地域研修で初期研修医の体調管理に気を配る必要があった。全ての初期研修医がスケジュール通りに進み、経験目標・行動目標など全て問題なく習得できた。

2. 出勤率、当直・日直について

全ての研修医が欠勤や大きな病気の発症なく研修が出来た。当直・日曜休日直は、約4回/月。初期研修医は土曜日曜の週休2日制を採用し、連続勤務時間制限を考慮し当直明け午後を半休とした。

3. 研修医セミナーについて(表2)

年間30回を開催している。毎年全く同じ講義内容にならないように、受講の研修医よりアンケートを行い、委員会において吟味・評価し、次年度において各講師に要望を伝えることにより、さらに充実したセミナープログラムになるよう心がけている。

4. 学会・研究会発表実績について(表3)

ほぼ全ての初期研修医は年1回学会発表を行った。学術集会、地方会、研究会で発表した研究・症例報告をYIAでよりわかりやすく発表し、最優秀演題に対しては、研修医及び指導医両者を表彰した。

5. 修了判定について

2023年3月13日の委員会において上記1~4およびJAMIP^{※1}結果を評価し研修医2年目4名(協力型も含む)は全員研修修了とした。

6. 進路は(表4)のごとくである。

※1: JAMIPとは、日本の初期研修医がどの程度プライマリケアの知識を身につけているかを把握する試みで、日本医療教育プログラム推進機構が実施。

◎2022年度内科専攻医の総評

1. 内科専攻医5年次3名に対して修了見込みとした。
2. 東邦大学大森医療センター消化器内科へ1人入局、東邦大学大橋医療センター循環器内科へ2人入局となった。

◎今後の目標

1. 学術集会、研究会や論文による発表の促進。院内では抄読会や症例検討会での発表。
2. PG-EPOCの360度評価をもとに、チーム医療の大切さとコメディカルとの協力体制を確立する。
3. 研修医セミナーにおいて医療安全、臨床倫理、感染対策など病院横断的なテーマの拡充をはかる。
4. 研修医の技術習得レベルを定期的にチェックする。
5. 昨年度と同様に初期研修医にはメンター制度を導入し、各研修医を知識面、技術面、精神面からサポートしてレベルアップ、脱落防止を図る。
6. 内科専攻医にはチューター制度を導入し、彼らのJ-OSLER進具合などtotalサポートを行っていく。

(表1) 研修医のローテーションスケジュール2022年度

	氏名	研修ローテーション科													
		消化器内科(大森)	呼吸器内科	小児科(成育)	地域研修	産婦人科	精神科(松沢)	脳神経内科: 膠原病 リウマチ科	皮膚科	腎臓内科 糖尿病・ 代謝内科	呼吸器内科	救急科	脳神経内科 膠原病 リウマチ科	産婦人科	救急科
2年次	清水陸久	消化器内科(大森)	呼吸器内科	小児科(成育)	地域研修	産婦人科	精神科(松沢)	脳神経内科: 膠原病 リウマチ科	皮膚科	腎臓内科 糖尿病・ 代謝内科	呼吸器内科	救急科	脳神経内科 膠原病 リウマチ科	産婦人科	救急科
	深谷健太	消化器内科(大森)	地域研修	小児科(成育)	腎臓内科 糖尿病・ 代謝内科	精神科(松沢)	救急科	皮膚科	呼吸器内科	リハビリ テーション科	産婦人科	救急科	脳神経内科 膠原病 リウマチ科		
	大山ひかり	皮膚科	救急科	消化器外科	地域研修	脳神経内科 膠原病 リウマチ科	泌尿器科	消化器内科	腎臓内科 糖尿病・ 代謝内科	循環器内科	リハビリ テーション科	精神科 (東京医科 歯科)	小児科 (武蔵野日赤)	産婦人科	呼吸器外科
	黒川 洸	救急科	腎臓内科 糖尿病・ 代謝内科	麻酔科	循環器内科	地域研修	皮膚科	小児科 (東京医科 歯科)	精神科 (東京医科 歯科)	産婦人科	消化器内科	脳神経外科	循環器内科		
1年次	長田大輝	循環器内科	脳神経内科 膠原病 リウマチ科	消化器内科	呼吸器内科	腎臓内科 糖尿病・ 代謝内科	呼吸器外科	消化器外科	救急科	麻酔科					
	西岡沙莉亜	腎臓内科 糖尿病・ 代謝内科	呼吸器内科	脳神経内科 膠原病 リウマチ科	消化器内科	循環器内科	救急科	麻酔科	呼吸器外科	消化器外科					
	奥村 学	消化器外科	麻酔科	呼吸器外科	救急科	呼吸器内科	腎臓内科 糖尿病・ 代謝内科	循環器内科	脳神経内科 膠原病 リウマチ科	消化器内科					
	加瀬主税	呼吸器外科	消化器外科	救急科	麻酔科	脳神経内科 膠原病 リウマチ科	消化器内科	呼吸器内科	循環器内科	腎臓内科 糖尿病・ 代謝内科					

(表2) 研修医セミナー2022年度

	日程			テーマ	担当講師
1	5月11日	水	17:00	心エコーのとり方(トレーニングあり)	循環器内科 若林隼人
2	5月19日	木	17:00	研修医が知っておきたい医薬品安全使用の基礎知識	薬剤科 北岡 晃
3	5月25日	水	17:00	輸液栄養領域勉強会(水、電解質輸液1)	大塚製薬
4	6月1日	水	17:00	輸液栄養領域勉強会(水、電解質輸液2)	大塚製薬

日程				テーマ	担当講師
5	6月8日	水	17:00	輸液栄養領域勉強会(末梢静脈栄養)	大塚製薬
6	6月22日	水	17:00	輸液栄養領域勉強会(中心静脈栄養+脂肪乳剤)	大塚製薬
7	6月30日	木	17:00	縫合セミナー(エチコン協賛)	消化器外科 大司俊郎
8	7月6日	水	17:00	胸部X線読影入門	呼吸器内科 田中望未
9	7月13日	水	17:00	輸液栄養領域勉強会(経腸栄養法)	大塚製薬
10	7月20日	水	17:00	アドバンスケアプランニング(ACP)について	緩和ケア認定看護師 中西君代
11	7月27日	水	17:00	大腿骨近位骨折	整形外科 藤田大貴
12	8月3日	水	17:00	介護保険制度について	医療ソーシャルワーカー 田村 唯
13	8月10日	水	17:00	急性腹症	消化器外科 小山照央
14	8月17日	水	17:00	マックグラスを使用した挿管トレーニング	麻酔科 朝木千恵
15	8月24日	水	17:00	漢方薬の基本的注意と頓用処方	ツムラ
16	9月1日	木	17:00	排尿症状へのアプローチ	泌尿器科 田中正樹
17	9月14日	水	17:00	神経筋疾患の診療	脳神経内科 小林正樹
18	9月28日	水	17:00	気胸の診断と治療	呼吸器外科 栗原正利
19	10月5日	水	17:00	研修医に知ってほしい皮膚病変	皮膚科 岩渕千雅子
20	10月12日	水	17:00	消化器内科で使用される薬剤	消化器内科 永嶋裕司
21	10月19日	水	17:00	アナフィラキシー発症時の対応	脳神経内科 齋藤和幸
22	10月27日	木	17:00	脳出血と画像診断	脳神経外科 原科純一
23	11月2日	水	17:00	腹部エコーの手技と所見	消化器内科 小林康次郎
24	11月10日	木	17:00	内分泌疾患	糖尿病・代謝内科 竹内崇人
25	11月17日	木	17:00	よく使う薬の禁忌、注意事項	薬剤科 北岡 晃
26	11月30日	水	17:00	癌外科治療の歴史	消化器外科 安野正道
27	12月12日	月	17:00	CKDについて	腎臓内科 高橋康訓
28	12月14日	水	17:00	心電図の読み方(不整脈)	循環器内科 小野 剛

(表3)学会・研究会発表実績 2022年度

演者	演題名	学会・研究会	日程
清水陸久 (2年)	門脈腫瘍塞栓合併肝細胞癌に伴う肝性脳症に対してシャント塞栓術を行うことにより、肝細胞癌の集学的治療が可能となった1例	第29回日本門脈圧亢進症学会総会	2022.9.8
深谷健太 (2年)	多彩な併存症を呈した高齢発症劇症1型糖尿病の1例	日本内科学会第682回関東地方会	2022.11.19
大山ひかり (2年)	COVID-19 ワクチン接種後に発症し、髄膜炎を合併、重症化した三俣神経第1枝帯状疱疹	第86回日本皮膚科学会東京支部学術大会	2022.11.19
	右外鼠径ヘルニア嵌頓整復後に大網出血をきたした1例	第84回日本臨床外科学会総会	2022.11.26
西岡沙莉亜 (1年)	HIVと梅毒の重複感染を認めたRamsay Hunt症候群の1例	第243回日本神経学会関東・甲信越地方会	2022.12.3
奥村 学 (1年)	胸腔子宮内膜症性気胸の術後気胸再発に骨盤子宮内膜症が与える影響の検討	第44回日本エンドメトリオーシス学会学術講演会	2023.1.22
長田大輝 (1年)	93歳の超高齢発症V180I変異クローイツフェルトヤコブ病(CJD)の1例	日本内科学会第684回関東地方会	2023.2.12
加瀬主税 (1年)	軽症段階からリツキシマブによる治療を開始した抗MAG抗体陽性ニューロパチーの1例	日本内科学会第685回関東地方会	2023.3.11

(表4)研修医の進路 2022年度

区分	学年	氏名	2022年度進路
基幹型	2年	清水陸久	東邦大学医療センター大森病院 消化器内科
		深谷健太	企業
協力型 東京医科歯科大学	2年	大山ひかり	東京ベイ浦安市川医療センター 外科
		黒川 洸	東京ベイ浦安市川医療センター 総合内科

電子カルテ・診療記録委員会

文責／和田義明

◎目的

電子カルテでの診療録の記載内容のチェックを行うとともに、記載内容の向上を図り、医療の質の向上を目指す。クリニカルパスの作製を奨励しその承認を行う。

◎メンバー(2023.3現在)

委員長：和田義明(診療部)

診療部：高橋康訓

電子カルテ室：畑山築雄

医療技術部：原 慶、谷口亜図夢、小河原由佳

看護部：藤原美佐江

診療支援部：橋本史子、永井利佳、庄司遙花、白木千恵、
長田 瞳

事務部：佐藤美和

◎開催日

最終火曜日、午後5時 この他に随時開催

◎活動報告

1. 定期的にカルテチェックを行い記載の実態を確認し改善点を指摘した。

2. クリニカルパスの実施を奨励し、腎生検、泌尿器科PVP、TUR-Pパスなどの新規作成、産科などの現状パスの改訂・承認を行った。
3. 内視鏡検査説明用紙などの改訂および検討を行った。
4. 電子カルテの記載につき検討を行い、医師への啓発を行い、記載率の向上を図った。
5. 検査説明文書の改定を行った(アルテプラゼ静注療法、造影CT検査など)。
6. 災害時の運用につき再度検討を行った。
7. 電子カルテサーバーの更新について検討を行った。
8. DPCの紙運用から電子カルテ内での運用の検討を行った。
9. DNARに関する同意書の承認を行った。

◎今後の目標

診療録の適切な記載と電子カルテによる更なる各部門の情報共有を図り、チーム医療をさらに促進させる。記載入力簡素化を図り業務の遂行を早め残業を減らす。

虐待対策委員会

文責／相川 丞

◎目的

児童虐待、高齢者虐待、障害者虐待、配偶者虐待など(疑いを含め)に対して迅速に対応し、組織的な対処を行うこと。

◎メンバー(2023.3現在)

委員長：相川 丞(診療部)

診療部：原科純一、佐藤敦子、三浦孝夫

看護部：長谷川寿美子、鈴木美沙緒、村上 歩、
藤原美佐江

医療安全管理室：杉山 恵

(ジェネラルリスクマネージャー)

診療支援部(MSW)：平田美乃里、田村 唯

事務部：藤井 隆、加藤みなみ

◎開催日

定例：第3火曜日(奇数月)、午後5時

臨時：緊急の問題事例が発生したときに委員会召集

◎活動報告

虐待対策委員会 6回開催

デジタルサイネージを利用し病院来院者に虐待に対する理解と対応に関して啓発活動を行った。

医局会で医師への虐待対策委員会の活動報告と対応時の注意点を確認した。虐待を受けている患者がDVであることを認識し、気軽に相談を行えるように院内のトイレや待合室にDV相談カードや相談窓口のチラシを設置した。eラーニングでの全職員向け『医療機関における虐

待対策』2022年度職員研修を開催した。

虐待事例：

【外来事例7件】加害者：夫婦5件、子1件、兄妹1件
警察介入4件、児童相談所通報1件、
行政連絡3件

【入院事例2件】加害者：子2件
行政連絡2件

相談窓口やDV相談カードが認知されつつあり、世田谷区だけでなく、川崎市のカードを渡すこともあった。夫婦間では、妻に対するDVだけでなく、夫に対するDVもあり、男性専用相談窓口カードを渡す事例もあった。警察への通報を勧めたが、同意されないケースも多かった。入所している施設職員が加害者の場合、施設との関係を考慮して虐待と認めない家族もいた。

◎今後の目標

様々な虐待に対する職員の知識、理解を深める活動を行い、被虐待患者の早期発見に努める。

虐待対応フローチャートを周知して、早期対応、連絡体制を確立する。院外関係機関(児童相談所、家庭支援センター、あんしんすこやかセンター、警察など)との連携体制を確立する。事例検証と症例蓄積を重ねて、迅速で適切な対応により重大事件の発生を予防する。

医師、看護師以外の職員にも虐待問題に関する理解と周知を徹底し、職員全体で早期発見、迅速対応ができる体制を作る。疑い症例を発見した職員には躊躇せず報告

してもらい、委員会が判断と対策を検討する。

国際対応委員会

文責／大石陽子

◎目的

円滑かつ安全に外国人患者を受け入れるための環境整備および職員に対する言語・異文化に関する研修を企画する。

◎メンバー(2023.3現在)

委員長：大石陽子(診療部)

看護部：山東真由子

(外国人患者受入れ医療コーディネーター)、
原賀由美子

(外国人患者受入れ医療コーディネーター)、
松岡愛也、古荘 瑩

医療技術部：小林俊介、田角泰子

事務部：下山奈巳、

安斎由美

(外国人患者受入れ医療コーディネーター)

◎開催日

第2水曜日、午後4時

◎活動報告

1. 外国人患者受け入れ状況データ収集(外来受診者数・入院数・対応言語数)

2022年度外来受診者数1,603名、入院患者数47名、対

応言語は日本語、英語、中国語、インドネシア語、スペイン語、スワヒリ語、タイ語、タガログ語、ドイツ語、ヒンディー語、フランス語、ベトナム語であった。他言語対応を必要とする症例は628名であった。

2. 医事課

発熱外来選任スタッフの設置。

3. リンクナースによる看護環境整備

リンクナース会の定期開催、リンクナース通信(月一回)発行、外国人対応におけるワンポイントレッスンの定期開催。中国語・韓国語版患者満足度調査アンケート作成および英語版患者満足度調査アンケート内容の改善。実際に行われた通訳に対する患者の理解度などの通訳評価および症例検討会を行った。

4. 薬剤科における外国人対応データ収集・環境整備

2022年度他言語による薬剤説明対応件数は105件であった。電子カルテ内に薬剤関連の英語患者説明書の拡充。

◎今後の目標

- ・英語版ホームページの充実。
- ・2024年度JMIP更新に向けた準備。

薬事委員会

文責／北岡 晃

◎目的

医薬品の適正な採用、管理、運用を図ることを目的とする。採用(院外のみ採用も含む)、採用削除、適正使用と管理、医療安全、後発品の採用、製造販売後調査受け入れ、その他必要と認める事項について審議する。

◎メンバー(2023.3現在)

委員長：森田瑞生(診療部)

診療部：佐藤敦子

医療技術部：北岡 晃、西村理恵子

看護部：志村千秋

事務部：藤井 隆、佐藤佳子

◎開催日

第4月曜日、午後4時30分

◎活動報告

・新規採用申請(31品目)、後発医薬品およびバイオ後続品(15品目)、院外のみ採用薬(34品目)、削除薬(49品目)について審議を行った。

・仮採用申請薬(183品目)の申請、自主回収・供給停止、有害事象発生、製造販売後調査の進捗状況について確

認を行った。

・後発医薬品使用割合は、85.2%(2022年3月)から84.8%(2023年3月)と横ばいであり、後発医薬品使用体制加算の診療報酬の要件変更により、加算2(85%以上)から加算3(80%以上)に変更して算定を継続した。

・医薬品マスタ管理の観点から「院外のみ採用」を「仮採用」区分に変更し、薬事委員会規程、申請書様式の改定を行った。

・正規採用後1年間の使用実績調査を行い、使用実績が僅少な薬剤について採用継続の可否の検討を行った。

・最新版の「今日の治療薬2023」の切り替えを半数の部署で行った。

◎今後の目標

・病院機能評価で品目数の削減を指摘されているため採用薬の整理を行う。

・後発医薬品への切り替えを進め、後発医薬品使用体制加算2(85%以上)の算定を目指す。

・同一薬効が複数ある薬剤についてフォーミュラリーを導入して整理を進める。

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

化学療法委員会

文責/小倉敬史

◎目的

がん化学療法の安全性と有効性を確保し、抗がん剤の適正使用を推進する。

◎メンバー(2023.3現在)

委員長：森田瑞生(診療部)

診療部：佐藤 康、大石陽子、大司俊郎、田中将樹、
仁平光彦、山本慶郎、竹内孝夫

看護部：中莖慈子、大西未来、湯澤奈弥、橋ヶ谷史沙、
大藤沙葵、千葉博子、中西君代

医療技術部：小倉敬史、松田沙貴子、篠原勇介、
猪狩亜希子

事務部：下山奈己

◎開催日

第4火曜日、午後5時

◎活動報告

- ・新規レジメンの審査、承認、登録を行った。
オプジーボ+ヤーボイ療法(腎細胞癌)
エンハーツ療法(乳癌)
カボメティクス療法(腎細胞癌)
サイラムザ療法(肝細胞癌)
- ・新規制吐剤であるアロカリス(ホスネツピタント)を採用し、乳腺外科EC療法レジメンおよび、アプレピタント適応患者のうちアドヒアランスが不良の患者に使用を開始した。

- ・5-FUの供給不足により一部レジメンの使用が制限されたため、代替レジメンの提案を継続した。
FECからEC療法(乳癌)、FOLFOX療法からXELOX/SOX療法(胃癌、大腸癌)、FOLFIRI療法からIRIS療法への変更を提案(5-FUは2022年11月14日に出荷制限が解除となった)。
- ・免疫チェックポイント阻害剤使用のレジメン使用時に注意すべきirAEに関して対策ガイドライン作成し電子カルテエントランスに掲載した。
- ・夜間・休日対応の医師向けにirAE鑑別に必要な検査について医師セットを作成し電子カルテエントランスに掲載した。
- ・病棟看護師にがん化学療法関連で困っている点についてアンケートを実施し、抽出した課題に対して情報共有を行った。(化学療法投与時の流量、流速の計算方法、閉鎖式ルートの作成、スピルキットの使用方法)
- ・がん化学療法開始前の血液検査の確認の徹底について、日本医療機能評価機構から発出された医療安全情報を共有し、検査値の基準値について共有を行った。

◎今後の目標

- ・院内がん勉強会の開催。
- ・後発医薬品およびバイオ後続品の切り替え検討。
- ・医薬品供給体制に応じた使用レジメンの提案。

その他委員会

名称	委員長	目的	開催日
医療ガス安全管理委員会	朝木千恵 (診療部)	医療用ガス(診療用に供する酸素、各種麻酔ガス、吸引、医用圧縮空気、窒素等)設備の安全管理を図り、患者の安全確保を目的とする。	年1~2回
機器整備委員会	松原正明 (診療部)	医療機器、用具および什器の新規購入、更新、廃棄について審議する。	第2月曜日
手術室運営委員会	朝木千恵 (診療部)	手術室の安全管理、清潔管理、機器整備、各科の意見交換等を行い、手術室の合理的運営を図る。	第3月曜日
輸血療法委員会(自己血輸血委員会)・臨床検査適正化委員会	松原正明 (診療部)	輸血療法の安全確保と適正化を図る。	第4月曜日
働き方委員会	安野正道 (診療部)	2024年4月施行「医師働き方改革」制度に向けて、労働時間短縮(28時間連続勤務制限9時間インターバル)計画策定と院内への周知を行う。	第4月曜日
救急・外来運営委員会	石井一之 (診療部)	玉川病院における外来業務に関する問題点を協議し、解決していくことを目的とする。救急医療についての記録、整備についても検討する。	第4月曜日
栄養給食委員会	竹内崇人 (診療部)	治療の一環として提供する病院給食の効率的な運営や改善を図る。	第3火曜日

名称	委員長	目的	開催日
衛生管理委員会	宮城 敦 (診療部)	職員の健康障害の防止、健康保持促進、労働災害の防止に係る対策を検討する。	第3火曜日
NST委員会	大司俊郎 (診療部)	栄養評価・栄養状態の改善を通して、治療効果の向上・感染症の減少・在院日数の短縮・医療費の削減・QOLの改善など医療レベルの向上を図ることを目的とする。	第4火曜日
広報委員会	二神 創 (診療部)	広報誌を発行することで、当院の情報を開業医や患者に提供し、当院の利用促進を図る。ホームページを日常的に管理し、情報の新規掲載や更新を行う。	第2水曜日
救命救急講習委員会	齋藤和幸 (診療部)	成人の突然の心停止に対する「最初の10分間」の対応とチーム蘇生方法について、日本救急医学会認定ICLSコースを通し、病院職員全体に学んでもらうことを目的とする。	第2水曜日
メディカルコントロール委員会	石井一之 (診療部)	医学的観点から救急救命士の業務活動の質を保障することにより、患者の安全を担保することを目的としている。	第2水曜日
病床機能管理委員会	森田瑞生 (診療部)	入院・退院・平均在院日数等を考慮し、円滑な病棟運営を目的とする。	第3水曜日
防火及び災害対策委員会	奥田直樹 (診療部)	災害時に院内の安全確保と医療機能を維持すること、災害拠点病院として適切な医療救護活動を行うために災害対策と防災管理体制を整備する。	第3水曜日
褥瘡対策委員会	岩渕千雅子 (診療部)	入院患者の褥瘡の状況を調査し、適切な対策を立て、治療効果を評価する。	第4水曜日
診療報酬委員会	安野正道 (診療部)	診療報酬請求に対する減点対策を行うとともに、保険診療の適正化と円滑な運営を図る。	第4水曜日
認知症ケア委員会	日熊麻耶 (診療部)	認知症に関わる知識の浸透、認知症患者に対するケアの改善を図る。	第1木曜日
臨床倫理委員会	小林正樹 (診療部)	当院で行われる医療行為について、ジュネーブ宣言の趣旨に沿い倫理的観点から必要な事項を整備し、また職員から求められる新たな問題に対して審査・助言を行う。	第4木曜日
緩和ケア委員会	田中将樹 (診療部)	緩和ケアに関わることの実施、啓蒙活動を行う。	第4金曜日
RST委員会	竹内孝夫 (診療部)	人工呼吸器を装着している患者(NPPV、HFTも含む)に対し、質の高いケアを提供するとともに、適切な呼吸管理が継続できるようにすることを目的とする。	第4金曜日

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

IV 福利厚生

保育室(ライクアカデミー株式会社)・総務課

文責/藤井 隆

スタッフ(2023.3現在)

室長1名、副室長1名、その他スタッフ8名

活動状況

玉川病院保育室は職員(常勤・非常勤)の勤務時(日勤・夜勤)の利用が可能で、0歳児から5歳児のお子さんが対象となる。低学年の就学児も理由により可能な場合もある。

る。昨年度に引き続きコロナの影響により、行事関係は縮小(保護者の参加人数を制限)して行った。保育室では月1回、消防避難訓練や事故対応訓練なども実施している。また感染対策委員は感染対応指導に添った感染症対策や対応を行っており感染症発生時の報告や日々の業務報告を担っている。さらに2ヶ月毎(コロナ前は毎月)に総務課、看護部と保育室スタッフにて意見交換を行っている。

2022年度保育室利用状況・累計

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	児童	合計
2022年 4月	0	41	32	25	0	3	0	101
2022年 5月	0	40	40	15	0	1	0	96
2022年 6月	0	43	40	20	1	1	4	109
2022年 7月	0	36	28	24	2	1	4	95
2022年 8月	0	36	33	13	0	1	4	87
2022年 9月	2	43	34	18	0	0	2	99
2022年10月	16	54	41	19	1	0	6	137
2022年11月	76	58	31	21	0	0	6	192
2022年12月	87	59	28	20	2	0	7	203
2023年 1月	84	55	21	20	3	0	9	192
2023年 2月	105	49	17	21	1	0	4	197
2023年 3月	118	55	35	11	2	1	6	228
合計	488	569	380	227	12	8	52	1,736

◎保育時間

日勤保育時間 8:00~18:00

夜勤保育時間 16:00~翌10:00

◎保育定員

33名

◎保育料

1回につき1,000円(最大金額 20,000円/月)

希望者には、朝・昼・夕の給食やおやつを提供を行っている。(朝食200円、昼・夕250円、おやつ100円)

◎1日のスケジュール

- 9:00 朝の会
- 9:30 おやつ
- 10:00 晴天時はお散歩、雨天時はお絵かきや製作
- 11:30 昼食
- 12:00 お昼寝
- 15:00 午後のおやつ
- 16:00 自由あそび

◎年間行事予定

- 5月 春の遠足・子供の日
- 6月 保護者懇談会
- 7月 七夕
- 9月 お月見
- 10月 秋の遠足
- 11月 保護者懇談会
- 12月 クリスマス会
- 1月 お正月遊び
- 2月 豆まき
- 3月 ひな祭り

今後の目標

コロナは収束していないが、感染防止対策をとりながらコロナ前に開催していた行事を行い、子供たちが楽しく過ごせるような保育を目指したい。